中学２年　国語科　教材別テスト⑬　「走れメロス」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「走れメロス」（太宰治）／光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語２』の「走れメロス」のページを開いたまま**解答します。長い物語なので、**場面ごとにメロスの気持ちがどう変わるか**を追いながら読み直すことが大切です。とくに、**路傍に倒れて約束をあきらめかけた場面**と、**泉の水を飲んで立ち上がる場面**の二か所が、この教材の中心になります。記述は、必ず**指定された文末の形**（「～ため。」「～気持ち。」「～こと。」）でそろえて書きましょう。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問／⑨⑩⑰⑱⑲は送りがな必要）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（語の意味・類義語・対義語・慣用句）	２点×７＝14点
	三	文法（十品詞の識別・自立語と付属語・活用の有無）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「走れメロス」の読解（12小問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① 十品詞を見分け、**自立語と付属語・活用の有無**という観点で語を整理できるか。

② この作品特有の**硬質な語彙**（暴君・邪知暴虐・未練・嘲笑・悠々）の意味をおさえているか。

③ メロスと王（ディオニス）の**対立の中身**＝「人は信じられるか」という問題だと理解しているか。

④ **路傍に倒れて言い訳をする場面**に表れたメロスの弱さと、**そこから立ち上がる動機の転換**（「走るのは名誉のためではなく、信じられているからだ」）を言葉にできるか。

⑤ 二人が**殴り合ってから抱き合う**意味、王の改心、最後の**赤面**の一文の効果まで、結末のしかけを読み取れるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	ぼうふう	⑪	冒険
②	げきど	⑫	計画
③	ゆうよ	⑬	習慣
④	ひとじち	⑭	友情
⑤	いんぼう	⑮	決心
⑥	けんきょ	⑯	群衆
⑦	いずみ	⑰	叶える
⑧	だくりゅう	⑱	沈む
⑨	あざむ（く）	⑲	着く
⑩	は（じる）	⑳	誠実

小計　20点

【注意したい字】

③「猶予」は「ゆうよ」。「猶」を「犬」偏で書きまちがえやすく、「ゆうじょ」という誤読も多い。④「人質」は「ひとじち」。「じんしつ」は誤り。⑤「陰謀」は「いんぼう」。「陰」はこざとへん、「謀」はごんべん。⑥「謙虚」は「けんきょ」。⑦「泉」は「いずみ」。⑨「欺く」⑩「恥じる」は送りがなまで必要（「恥る」は×）。⑪「冒険」の「冒」は「日」の上に「冂」、「険」はこざとへん。⑬「習慣」の「慣」はりっしんべん。⑯「群衆」は「群集」と区別（人の集まりは「群衆」）。⑰「叶える」は送りがな「える」まで。⑲「着く」は送りがな「く」まで。⑳「誠実」の「誠」はごんべん。「信実」とまちがえないこと（作品中の語は「信実」）。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ウ**	「暴君」＝自分の思いのままに乱暴な政治を行う君主。この作品の王（ディオニス）をさす語で、物語の出発点になる。
(2)	**イ**	「邪知暴虐」＝「邪知（悪知恵）」＋「暴虐（むごく乱暴なふるまい）」。四字がすべて悪い意味をもつ、重い語。
(3)	**イ**	「未練」＝思いきれずに心が残ること。「練習が足りない」という意味ではない（「未熟」と混同しやすい）。
(4)	**イ**	「悠々」＝ゆったりと落ち着いている様子。あわてず構える態度を表す。
(5)	**エ**	「嘲笑」＝人をあざけり笑うこと。**相手を見下して笑う**点で「冷笑」が類義語。ア微笑（ほほえみ）・イ苦笑（苦々しい笑い）・ウ爆笑（大笑い）は意味がちがう。
(6)	**反抗** **（「抵抗」も可）**	服従（相手に従う）⇔反抗（相手に逆らう）。メロスと王の関係そのものを表す対義語。
(7)	**腹**	「腹を割って話す」＝かくしごとをせず、本当の気持ちを打ち明ける。結末で二人が告白し合う場面と重なる慣用句。「胸」「心」は×。

小計　14点

三　品詞の識別　（２点×８＝16点）

番号	――線部・対象の語	解答	解説（見分け方）
(1)	**激怒**	**ア　名詞**	「〜は」「〜が」をつけて主語にできる。「激怒する」の形で動詞にもなるが、ここは単独で名詞。
(2)	**のんきな**	**エ　形容動詞**	言い切りの形が「**〜だ**」（のんきだ）。「**〜な**」で名詞を修飾する。連体詞とまちがえやすいが、**活用する**点がちがう。
(3)	**走っ**	**イ　動詞**	言い切りの形が**ウ段**（走る）。「走っ」は促音便の形。
(4)	**やがて**	**オ　副詞**	用言（「傾きはじめた」）を修飾し、**活用しない**。
(5)	**あの**	**カ　連体詞**	活用せず、**体言（名詞）だけ**を修飾する。「この・その・あの・大きな・ある」など。
(6)	**けれども**	**キ　接続詞**	文と文をつなぐ（逆接）。文の先頭にあって、**独立して接続の働きだけ**をしている。※助詞の「けれども」（「重いけれども」）との区別に注意。
(7)	**は／を／たい／思っ**	**ア・イ・ウ** **【完答】**	ア「は」＝助詞、イ「を」＝助詞、ウ「たい」＝助動詞で、いずれも**単独で文節を作れない付属語**。エ「思っ」は動詞＝自立語なので除く。三つそろって２点、一つでも欠け

			たり余ったりすれば0点。
(8)	**けれども／ああ／来る／悲しい／すぐに**	**ア・イ・オ** **【完答】**	ア「けれども」＝接続詞、イ「ああ」＝感動詞、オ「すぐに」＝副詞は**活用しない**。ウ「来る」＝動詞、エ「悲しい」＝形容詞は活用する。三つそろって２点（完答）。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【品詞を見分ける三つの手順】

①　**自立語か付属語か**…単独で文節を作れるか。作れないのは助詞・助動詞だけ。②　**活用するか**…動詞・形容詞・形容動詞・助動詞は活用する。③　**何を修飾するか・言い切りの形**…連体詞＝体言だけを修飾／副詞＝主に用言を修飾、言い切りが「〜う」＝動詞、「〜い」＝形容詞、「〜だ」＝形容動詞。「のんきな」を連体詞、「やがて」を接続詞とする誤りが多い。

四　「走れメロス」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**イ**	冒頭でメロスは、王が人を信じられずに次々と命をうばっているという話を聞き、「**暴政は許せない**」という正義感から激怒する。ア・ウ・エは本文にない。
(2) 4 点	**イ**	王は**人の心を初めから当てにしていない**。この人間観が、メロスの「人を信じる」という考えと正面からぶつかり、物語の対立軸になる。
(3) 5 点	**（例）たった一人の妹の結婚式を挙げさせ、見送ってやるため。（26字）**	「**妹の結婚式（婚礼）**」（３点）＋「**挙げさせる／見送る＝済ませてから戻る**」（２点）で採点。 「逃げるため」「王をだますため」は０点。文末が「**～ため。**」でなければ－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(4) 4 点	**ウ**	王は猶予を**メロスが本当に約束どおり戻るかを見届ける機会**として与えた。本心では戻らないと見こんでおり、戻らなければ自分の考えが正しいと示せる。ア・イ・エのような好意や同情からではないので×。
(5) 4 点	**ア・イ・ウ** **【完答】**	氾濫した川（橋の流失）→山賊の待ちぶせ→照りつける日ざしとひどい暑さ、と**妨害が段階的に重くなる**。エ・オは本文にない。三つそろって４点、欠けても余っても０点。
(6) 6 点	**（例）疲れ切った体では走れないと言い訳をして、約束を投げ出したい気持ち。（33字）**	「**疲れ果てて、もう走れない**」（２点）＋「**自分に言い訳をしている／開き直り**」（２点）＋「**約束をあきらめたい・投げ出したい**」（２点）で採点。 倒れた様子を**なぞっただけ**（例「道に倒れた」）は０点。**ここはメロスの最も人間的な弱さ**が出る場面であり、「友を思って悲しんだ」と美化してしまった答えは最大３点。文末が「**～気持ち。**」でなければ－１点。三十～四十字から外れたら－１点。
(7) 3 点	**ウ**	泉の水で生き返った後、メロスを走らせるのは「**信じられている**」**という事実**。ここで動機が**名誉・義務から、友の信頼に応えること**へと転換する。
(8) 3 点	**ア**	「わけのわからぬ大きな力」は、理屈や計算をこえたところから人を動かす力。**名誉や義務ではない**からこそ「わけのわからぬ」と表現されている。イの超人的体力ではない。

(9) 5 点	**（例）互いに一度は相手を疑った弱さを認め合い、許し合って信頼を取りもどしたこと。（37字）**	「**一度は疑った＝自分の弱さを互いに正直に認める**」（３点）＋「**許し合い、本当の信頼を結び直す**」（２点）で採点。 「けんかをした」「仲直りした」だけは最大１点。**殴り合いは怒りではなく、弱さを隠さない正直さの表れ**である点をおさえているかが分かれ目。文末が「**～こと。**」でなければ－１点。三十～四十字から外れたら－１点。

四　「走れメロス」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 3 点	**イ**	王は**言葉ではなく、二人の姿そのもの**によって「信実」が実在すると知らされ、考えを改める。アのような外からの圧力ではない。
(11) 3 点	**イ**	緋のマントと赤面によって、メロスは**英雄から、はにかむ一人の若者**に戻る。張りつめた場面のあとに笑いと明るい余韻を置く、効果的な結び。
(12) 6 点	**（例）相手を疑わず、約束を守り抜こうとする心のまことで、人と人とを結びつける力をもつものである。（45字）**	**【ルーブリック】**①「人を信じる／疑わない」（２点）②「約束や誠意を最後まで守り通す心」（２点）③「人と人とを結びつける／空虚な妄想ではなく実在する」（２点）。 ①②③のうち二つなら４点、一つなら２点。「正直なこと」だけの一語答えは１点。四十〜五十字から外れたら－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ）】

1. メロスの激怒の相手は**王の暴政**。個人的なうらみではなく、「**人を信じない**」**という王の考え**への怒りである。
2. 猶予は王の**情け**ではない。「**人は信じられない**」**ことを証明するための仕掛け**として与えられている。
3. セリヌンティウスは**人質**であり、メロスが戻らなければ代わりに死ぬ。「**命を預けた**」という重さを忘れないこと。
4. 最大の山場は、間に合った場面ではなく**路傍で倒れて言い訳をする場面**。メロスは**一度は約束をあきらめかけた**。
5. 立ち上がった後の動機は「**名誉のため**」**ではなく**「**信じられているから**」。**動機の転換**をおさえる。
6. 「わけのわからぬ大きな力」は**体力や復讐心ではなく、理屈をこえた心の働き**。
7. 殴り合いは仲たがいではない。**疑った弱さを互いに正直に認め合う行為**であり、だからこそ抱き合える。
8. 最後の**緋のマント・赤面**は、英雄譚を人間の物語に戻す一文。「**よけい**」**な場面ではない**。